図画工作の題材提案と実践
―異素材と組み合わせる「金属」―

11001EMM
池　田　彩　実

平成20年の学習指導要領改訂で図画工作科に用いる材料や用具に変更が加わり、中学年の「釘」や高学年の「針金」という具体的な材料名が記載された。針金を主な素材とした教材は現行の教科書に三点のみ掲載される。学習指導要領解説には「アルミ針金のように柔らかいものは，布などの他の材料と併用するなどして，表現の幅を広げることができる」とあるが、針金と「布などの他の材料」を主な素材とする教材は数少ない。本論文では針金という金属と異素材の段ボールを組み合わせた題材を提案し、小学校高学年を対象に実践を行った。

針金を素材に選ぶ理由は自在に形を変えられる可変性にある。一筆書きのように描ける線材だが、織るように組むと面、毛糸玉のように巻くと球の表現にもなる。針金は一次元から二次元、三次元といった表現の広がりが期待できる素材であり、空間を生かしやすい特色がある。そこに層をもつ段ボールを組み合わせると針金を層に通す方法が考えられ、線材と面材が融合した表現が可能となる。また段ボールは加工しやすく児童にとって身近な素材である。

実践では針金は様々な形に変わり興味深いと意見した児童が多数だった。段ボールと組み合わせた作品づくりで、針金は装飾・仕組みのような役割・性質を生かした材料として使用された。素材融合の例として、針金の端を段ボール層に入れて固定した児童自らの工夫による表現が挙げられる。児童の感想に「針金だけで作るよりもダンボールといっしょに作った方が楽しかった」とあり、線材の針金が表現しきれない部分を面材である段ボールが補完したと考察できる。

素材の特徴による課題もあるが、組み合わせの利点は面を表現する段ボールと自在に線を描ける針金を融合させた表現の広がりである。児童作品の表現や感想を分析する中で幅広い表現活動につながる可能性を見いだせた。